

DB01666
2000
(H0)

日本語活用体系の歴史的変遷に関する研究

坪井美樹

寄	贈
坪 井 美 樹 氏	平成 年 月 日

01003512

目 次

序 章 本研究の目的と方法	1
第1節 本研究の目的	1
第2節 先行研究	1
第3節 研究の方法	2
第4節 本研究で用いる概念と用語	4
第5節 本研究の構成	4
第 I 部 動詞活用体系の変遷	
第1章 終止形連体形合流と二段活用の一段化	7
第1節 本章で取り扱う対象と範囲	7
第2節 動詞活用体系における〈形態の示差性〉について	7
第3節 終止形連体形合流	11
第4節 二段活用の一段化	15
第2章 上代音韻体系における甲類乙類の差異消滅と活用体系	19
第1節 本章で扱う問題	19
第2節 活用体系の「成立」と「崩壊」	19
第3節 いわゆる上代特殊仮名遣と活用体系	21
第4節 上代の音韻体系に関する仮説	23
第5節 上代の命令形と平安時代の命令形	24
第6節 本章のまとめ	24
第3章 平安時代における「命令形」の成立	26
第1節 活用研究史上に見る《命令形》	26
第2節 平安時代の命令形	28
第3節 上代の命令形	30
第4節 方言形「一口」	32
第5節 活用起源論との関連	33
第6節 本章のまとめ—形態の示差性の観点からの解釈	35

第Ⅱ部 音便形と活用体系

第4章 〈音脱落〉の形態音韻論的検討	39
－ 〈音便形〉について考える序説として－	
第1節 〈音脱落〉とは如何なる現象か？	39
第2節 〈音脱落〉と〈音便〉	43
第3節 〈音脱落〉の機能と諸例	44
第4節 〈音脱落〉のまとめ	49
第5章 活用形としての動詞音便形の成立	52
第1節 〈音便〉の機能	52
第2節 「活用形としての音便形」と音便の種類	54
第3節 音便形発音の順序	55
第4節 活用形としての音便形の存在意義	57
－ 「なぜ上二段活用に音便形が生じなかったか」という問いについて－	
第5節 サ行四段動詞の音便形	58
第6節 連用形内部での音便形と非音便形の役割分担	60
第6章 形容詞の音便形	62
第1節 先行研究と問題の所在	62
第2節 一語化の遅速と音便発生の遅速	63
第3節 連用形ウ音便の発生	64
第4節 連用形ウ音便形の一般化と連用形原形の残存	67
第5節 連体形イ音便の発生と一般化	69
第6節 形容詞における「活用形としての」音便形	70
第Ⅲ部 〈オホ～〉の意味と形態の分化をめぐる諸問題	
第7章 古代官職名に見る接頭辞〈オホ～・オホキ～・オホイ～〉	77
第1節 『和名類聚抄』における官職名	77
第2節 〈オホ～〉と〈オホキ～・オホイ～〉との違い	79

第3節	〈オホキ〜〉と〈オホイ〜〉との違い	83
第4節	形容詞音便形との関連	84
第8章	古代日本語における《大》と《多》 —終止形オホカリの成立—	86
第1節	問題の所在	86
第2節	〈オホ〉の原義	88
第3節	『万葉集』における文中の位置と意味の分化	90
第4節	《大》と《多》の意味と形態の分化	93
第5節	本章のまとめ	98
第IV部 助動詞の語形変化と活用形		
第9章	ムズ(ル)からウズ(ル)へ	101
第1節	はじめに—ムズ(ル)とウズ(ル)	101
第2節	辞化と語形縮約	102
第3節	〜ムトスからムズ(ル)へ	102
第4節	ムズ(ル)からウズ(ル)へ	104
第5節	終止法ウズは〈旧終止形の残存〉か?—京1995に対する私見	105
第6節	語尾ズの終助詞的性格—鎌倉1993に対する私見	107
第7節	ウズ形の成立—ル音脱落	108
第8節	ウズル形の成立—活用語尾ルの再生	110
第9節	本章のまとめ	112
第10章	ウズ(ル)とマ(ジ)イ	116
第1節	はじめに—ウズとウズル	116
第2節	談話機能の表示	117
第3節	狂言資料におけるウ(ン)ズ(ル)の分布とその分析	118
第4節	キリシタン資料におけるウズ(ル)の分布とその分析	120
第5節	ウズとウズルについてのまとめ	123
第6節	マイとマジイについて	123
第7節	(付説) マイ・マジイ両形の成立	125

第11章 ラウ（メ）とサウ（ヘ）	129
第1節 ラウの已然形ラウメ	129
第2節 サウの已然形・命令形サウヘ	132
第12章 語形変化を誘導する活用形	136
第1節 はじめにー活用語の語形変化	136
第2節 ル音脱落(1)ー形容動詞語尾と指定の助動詞	139
第3節 ル音脱落(2)ー過去の助動詞タ	143
第4節 本章のまとめに代えて	145
ー尊敬の助動詞シモ・シムの形態の“ゆれ”	
結語	148
参照文献一覧	150